

文化財ニュース いわき

第 68 号

平成 24 年 9 月 19 日

財団法人いわき市教育文化事業団

福島県いわき市常磐藤原町手這50-1
(いわき市考古資料館内)

TEL 0246 (43) 0391

平成23年度発掘速報展

いわき市内には、現在まで約1,400箇所の遺跡が確認されています。遺跡は地下に埋まっていることから埋蔵文化財といわれます。先人から代々受け継がれてきたこれらの遺跡は、現在に生きる私たちもまた現状のまま後世に引き継いでいかなければなりません。

しかし、開発や平成23年3月11日の東日本大震災などの天変地異によって、現状のまま保存することが困難になった遺跡は、本発掘調査や試掘調査が行われ、記録保存というかたちで後世へと引き継がれていくことになります。

発掘速報展は、市内で行われた本発掘調査や試掘調査及び整理・報告書作成作業の成果をいち早く公開・展示することにより、市民の皆さまに最新のいわきの歴史に触れていただくことを目的としています。平成23年度の発掘速報展では住吉館跡、御前田A遺跡・泉町A遺跡、後田遺跡、北境遺跡などの成果を報告します。



平成23年度に発掘調査が行われた住吉館跡の空中写真



防御施設と推測される柵跡（住吉館跡）



土塁の調査状況（住吉館跡）



竪穴住居跡（御前田A遺跡）



掘立柱建物跡（御前田A遺跡）

◆住吉館跡（すみよしたてあと）

住吉館跡は矢田川と藤原川に挟まれた独立丘陵上に築かれ、周辺には真言宗の古刹「遍照院」や、地名の由来となった延喜式内社の「住吉神社」が鎮座しています。丘陵の崖壁に彫られた市指定文化財「住吉磨崖仏群」や「搦町」、「浜宿」、「大町」等の地名から中世には本館跡を中心とした集落が形成されていたと考えられています。

今回の発掘調査は、急傾斜地崩壊対策事業に伴って行われたものです。中世の遺構として、防御施設と推測される柵跡や、入口施設等が検出されました。「梅瓶」と呼ばれる中国製磁器片や、瀬戸灰釉陶器片、中世の土器である「かわらけ」等が出土しています。

◆御前田A遺跡・泉町A遺跡（ごぜんだAいせき・いずみまちAいせき）

今回の調査は、平成6年に実施された試掘調査の結果に基づき、遺構が検出された420㎡を対象として行われました。

遺構は、御前田A遺跡では竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、溝跡、ピット、水田跡、遺物包含層、泉町A遺跡では水田跡、遺物包含層が検出されました。

特に御前田A遺跡の竪穴住居跡と掘立柱建物跡は、縄文時代以降に形成された海岸砂丘である「浜堤」上を中心に、営まれていたものと考えられます。竪穴住居跡は奈良時代末～平安時代初頭に属し、掘立柱建物跡は溝跡との重複関係から、古代以降に属すると推定されます。

とじておきましよう。

◆後田遺跡（うしろだいせき）

後田遺跡は、鮫川下流域左岸の標高29mの河岸段丘上の後田町源道平地内に所在しており、周辺には、県指定重要文化財の「陶棺^{とうかん}」を出土した後田古墳など多くの遺跡が所在しています。今回の試掘調査では、市内でも稀有な時期の竪穴住居跡が確認され、その重要性から同トレンチに限り継続して本発掘調査を行いました。

竪穴住居跡は不整楕円形で弥生土器・石器が出土しました。弥生土器の一群は、鋭利な棒状工具により一本沈線が描かれ、磨消縄文を持たず瘤粒が付くのが特徴です。出土例の少ない弥生時代中期中葉の土器群です。今後のいわきの弥生土器の研究に大きく貢献する資料となりました。

◆北境遺跡（きたざかいいせき）

北境遺跡は、蛭田川左岸の台地上に位置します。竪穴住居跡のほか、土坑、溝跡、ピットなどが見つかっています。

竪穴住居跡は、重なるように3棟が見つかりました。1号竪穴住居跡は平安時代の住居跡で、一辺4.2×3.8mの方形をしています。カマドは、直立する礫を袖の芯材として利用した頑丈なつくりのものでした。住居跡からは、土師器・須恵器の甕や杯、鉄製の紡錘車^{ぼうすいしゅ}などが出土しています。

また、直径が約3.5mを測る大きな楕円形土坑の中からは土器の底に漆の塗られた土器片などが出土しています。これらの土器から、弥生時代後半に掘られた穴と考えられます。



弥生時代の竪穴住居跡（後田遺跡）



竪穴住居跡の調査状況（後田遺跡）



住居跡カマドのようす（北境遺跡）



住居跡の調査状況（北境遺跡）

としておきましょう。



崩落した市指定史跡磐城平城塗師櫓石垣



久之浜バイパスH地点・I地点試掘調査のようす



横根古墳・横根館跡試掘調査のようす

そのほか一般国道6号久之浜バイパスH地点・I地点、携帯電話無線基地局建設に伴う坪内遺跡の試掘調査もありました。

◆平成23年度に刊行された報告書

やあどよこあなくん
 八幡横穴群は昭和50年（1975）に30基の調査が行われ、金銅装太刀をはじめ6世紀中頃を主体とする首長墓級の副葬品が出土しました。37年の歳月が経過した平成23年8月、発掘調査の成果をまとめた報告書が刊行されました。

◆平成23年度に実施された試掘調査

平成23年度のいわき市内の発掘調査は3月11日に発生した東日本大震災により6月から開始されましたが、震災復旧や防災事業に関連するものが大半を占めました。

いわき たいらじょう ゆ し やぐらいしがき
 市指定史跡磐城平城塗師櫓石垣の崩落状況を記録するための調査が実施されました。また、いわき市内の埋蔵文化財包蔵地（258遺跡）や市指定史跡・天然記念物などの被害確認調査も実施されました。

が き どうよこあなくん
 急傾斜地崩落防災事業に関する発掘調査としては餓鬼堂横穴群や住吉館跡、大浦小学校の^{ふる}大気常時監視測定局設置による^{かわ}古川遺跡、送電線鉄塔の建て替えに関連する^{よこね}横根古墳 ^{よこね}・^{たなかうちしま}横根館跡、田中内島館跡などは震災や原発事故に関連する試掘調査や発掘調査です。

民間宅地造成に関する試掘調査・本発掘調査は11件と多く、^{さかい さかい はら}酒井酒井原遺跡、^{なか}中田原遺跡、^{うしろだ}後田遺跡、^{ねぎし}根岸遺跡、^{たいらじょう}平城跡、^{あと いづみじょう かまち}泉城下町遺跡、^{まいし}真石B遺跡、^{きたざかい}北境遺跡、^{まだま}馬玉貝塚、^{くぼた さかい はら}窪田酒井原遺跡、^{お やざくひろはた}小谷作広畑遺跡です。



八幡横穴群の整理作業のようす

とじておきましょう。